

龍門文庫藏『和漢朗詠集』——本文テキスト冒頭部抄出——

本文目録

〔1才〕

倭漢朗詠集卷上

春

立春。早春。春興。春夜。

子日付。三月三日付。三月盡付。

閏三月。鶯。霞。雨。梅付。

〔1ウ〕

夏

柳。花付。躑躅。款冬。藤。

更衣。首夏。夏夜。端午。

納涼ナツリヨシ。晚夏ウシヨシ。花橘。蓮。

郭公。蚩。蟬。

〔2才〕

秋

立秋。早秋。七夕。秋興。

秋晚。秋夜。八月十五夜付。

九月九日付。九月盡付。女郎花。萩。

蘭。槿。前栽。紅葉付。鴈付。

〔2ウ〕

虫。鹿。露。霧。擣衣

冬

初冬。冬夜。歲暮。爐火。

霜。雪。氷付。霰。佛名。

春

〔3才〕

立春

逐ッテ吹一潜ク開ク。不待ニ芳菲之
候一。迎春一乍變。將ス希ニ雨露之恩
吹を逐つて潜開く。芳菲の候を待たず春を迎へて乍ちに變ず。將に雨露之恩を希はむとす。立春の日、内園に花を進る賦。公乘億。

池凍リノ東頭ノ風度解。窓ノ梅ノ北

面雨雪封寒

池の凍の東頭は風度つて解く。窓の梅の北面は雪封じて寒し。立春の日、里芸閣緒文友 篤茂

〔3ウ〕

とし乃うちにはるはきにけり一年を

こそとやいはむことしとやいわむ

柳無ニ氣力ノ一條先動キ。池有ニ

波ノ文ニ氷盡開

柳に氣力なくして條先つ動く。池に波の文ありて氷盡く開けたり。府西池 白

今日不知ニ誰計會ス。春ノ風春、

水一時來 同上

今日知らず誰か計會せし。春の風春の水一時に來る

〔4才〕

夜向ノ殘更ニ寒磬盡キ。春生ニ

香火ニ曉爐燃

夜殘更になくむとして寒磬盡きぬ。春香火に生つて曉爐燃ゆ

袖ひちてむすひし水のこほれるを

はるたつ今日の風やとくらん 貫之

春立といふはかりにやみよし野の

山もかすみてけふハミゆらん

〔4ウ〕

早春

氷消ニ田地ニ蘆錐短シ。春入ニ枝

條ニ柳眼仞

氷田地に消えて蘆錐短し。春枝條に入つて柳眼低れり 樂天に寄す元禎

先遣ニ和風ヲ一報セシムニ消息一。續教ノ二

啼鳥一説ニ來由一

先づ和風をして消息を報ぜしむ。續で啼鳥をして來由を説かしむ 春生 白

東岸西岸之柳。遲速不ニ同一。

「5才」

南枝北枝之梅。開落已コトナリ異

春生逐地形序
慶保胤

とうがんせがん やまき ちそくおな
東岸西岸の柳。遅速同じからず。南枝北枝の梅。開落已に異なり。春の生ることは地形に逐ふ 慶保胤。

紫塵ゼンチウキ嬾ヒ蕨人ニニキル拳ニ手ヲ。碧玉キキョウ

寒蘆キアシ錐リタツ脱ス二囊ヲ
和早春晴後野
相公

しじらん わかひ ひして にぎ へきさぐ さむ あし きりふろ だづ
紫塵の嫩き蕨は人手を拳る。碧玉の寒き蘆は錐囊を脱す 和早春晴後野相公

氣霽ハレ風梳ケツル新柳カミラ。水消ミヅ波洗ナミ二舊キウ苔ノ鬚ヲ。早春賦春暖都良香

きはれ かぜんりう かみ けつ へきさえ なみきうたい ひげ ちから さいしゆん ふはるあたか みやこのよし
氣霽ては風新柳の髪を梳る。水消ては波舊苔の鬚を洗ふ 早春の賦春暖 都良香

「5ウ」

庭増ニ氣色ヲ晴ハレ沙緑ナリ。林變シ容輝ニ宿雪紅ナリ。草樹暗迎春紀納言

ていはきしやく ま はれ いさみどり はやぶようひん こんのゆきくれなる さうしゆんげうのはる きあたん
庭氣色を増せば晴の沙緑なり。林容輝を變すれば宿雪紅なり。草樹暗迎春 紀納言

いはそくたる春になりけるかな 志貴皇子

谷風にとくるこのほりのひまとに

うちいつるなみやはるのはつはな 源當澄

みわたせハひらのたかねに雪きえて

わかなつむへく野はなりにけり 無盛

今回、龍門文庫藏『和漢朗詠集』の冒頭から「春」の「立春・早春」の箇所を提示した。この箇所

で注目しておきたい漢詩に「5才」の「紫塵 嬾 蕨人 拳 手 碧玉 寒 蘆 錐 脱 二 囊」がある。これにつ

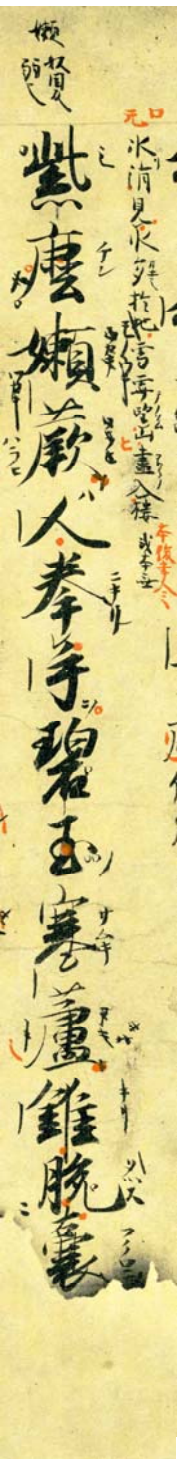
いては、拙論『下學集』における字形相似の文字―『和漢朗詠集』所収句の表記字体語注釈から―「駒澤短大

國文第36号」をお読み願いたい。この論文をこの場でお渡しする。

また、『和漢朗詠集』の注釈書資料は、室町時代に多く参見する。『和漢朗詠集私注』『内閣文庫藏』や『和漢朗詠集註』を以て、まだ解決が及んでいない詩句や和歌の語句についても今後検討を進めていきたい。

〈文字資料〉

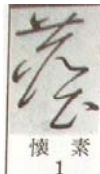
鎌倉時代写「和漢朗詠集」



「塵」と「莖」

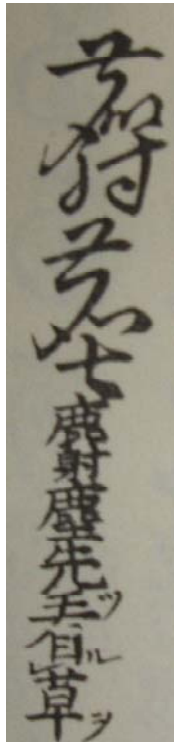


伊都内親王筆「塵」文字



赤井清編『行草大字典』の「塵」文字一覧

『事林廣記』所載の「麿」と「塵」の行草文字



宮内庁書陵部蔵『和漢朗詠集』の「塵」乃至「莖」文字



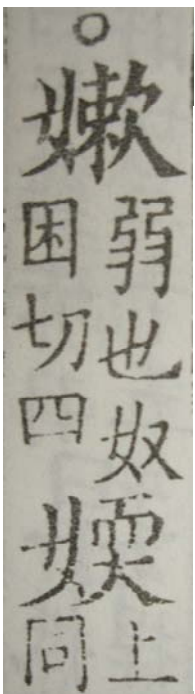
『和漢朗詠集』断簡資料〔卷下「閑居」〕の「莖」文字



見^クニ天台山之高巖^{カン}。四十五尺浪白望^スニ長安城之遠樹^{ジュ}。百千^{シユ}万^{マン}齊^{サイ}青^{セイ}。順^{ジュン}。天台山の高巖を見れば。四十五尺の浪白し。長安城の遠樹を望めば。百千萬莖の齊青し。

「嬾」と「嫩」

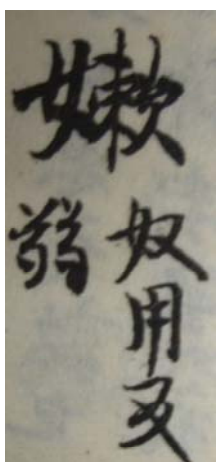
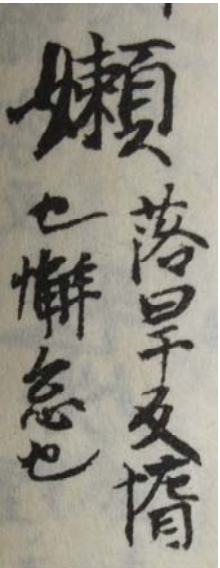
鎌倉時代写『和漢朗詠集』頭註『廣韻』の「嫩」文字と語注記



嬾 奴困反。弱也。

○嫩 弱也。奴困切。

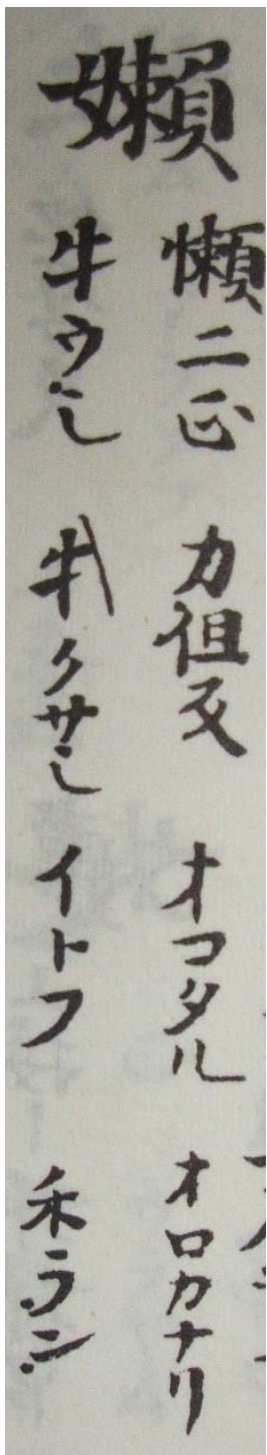
『新撰字鏡』の「嬾」と「嫩」の文字及び語注記



嬾 落旱反。惰也。懈怠也。

嫩 奴用反。弱。

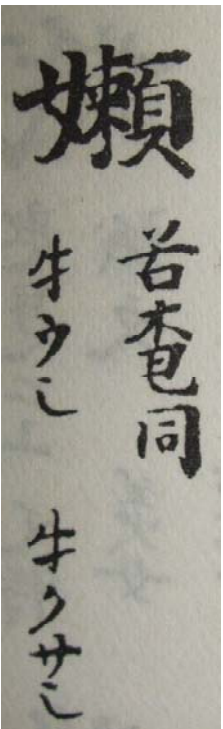
観智院本『類聚名義抄』の「嬾」と「嫩」の文字及び語注記



嬾

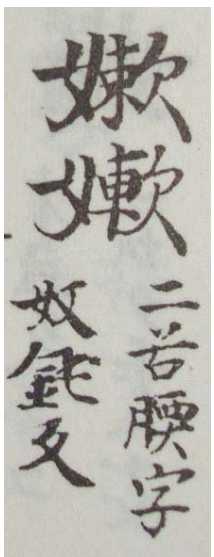
嬾 二正。力但反。オコタル、オロカナリ、

牛ウシ、牛クサシ、イトフ、禾ラン



嬾 谷奄同。

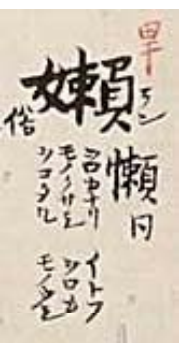
牛ウシ、牛クサシ



嫩 二谷腭字

奴鈍反

龍谷大学蔵『字鏡集』の「嬾」と「嫩」の文字及び和訓



×「嫩」の文字未収載

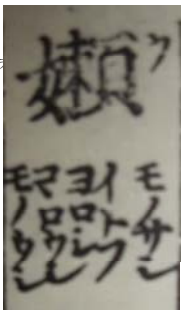
嬾 嬾同

俗 フロカナリ イトフ

モノクサシ フロカ

フコタル モノウシ

慶長一五年版『倭玉篇』の「嬾」と「嫩」の文字及び和訓



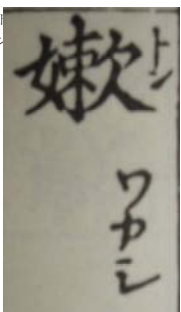
嬾 モノウシ

イトフ

ヨロシ

コ、ロウシ

モノウシ



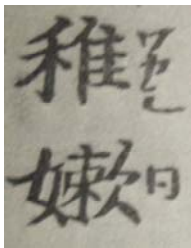
嫩 ワカシ

広本『節用集』の「嫩」文字及び語注記〔※『下學集』の語注記を継承する〕

○若^{ワカシ}「去入」。稚^チ「去」。嫩^シ「去」此字或作嬾。各別也。本朝朗詠集^ニ有^ニ樂天^カ句^ニ云。紫莖^シ嫩^シ人^カ拳^シ手^ノ。世俗^ニ因^テ三字^ニ形^ニ相似^ニ呼^レ嬾^ラ作^ニ嬾^ノ讀^ト。大誤也。況^フ句^ノ意^モ亦^タ失^ニ蕨^ノ用^ラ。子細^ニ可^レ笑^レ之^ヲ。一件^ノ莖^ノ字^モ亦^コ作^レ塵^シ。是^レ大誤也。嗚呼^一句^ノ中^ニ誤^ル二^ニ箇^ノ字^ヲ何^ノ義^シ哉^矣〔態藝門250④⑤〕

○若^{ワカシ}「去入」。稚^チ「去」。嫩^シ「去」此字或作嬾。各別也。本朝朗詠集^ニ有^ニ樂天^カ句^ニ云。紫莖^シ嫩^シ人^カ拳^シ手^ノ。世俗^ニ因^テ三字^ニ形^ニ相似^ニ呼^レ嬾^ラ作^ニ嬾^ノ讀^ト。大誤也。況^フ句^ノ意^モ亦^タ失^ニ蕨^ノ用^ラ。子細^ニ可^レ笑^レ之^ヲ。一件^ノ莖^ノ字^モ亦^コ作^レ塵^シ。是^レ大誤也。嗚呼^一句^ノ中^ニ誤^ル二^ニ箇^ノ字^ヲ何^ノ義^シ哉^矣〔態藝門250④⑤〕

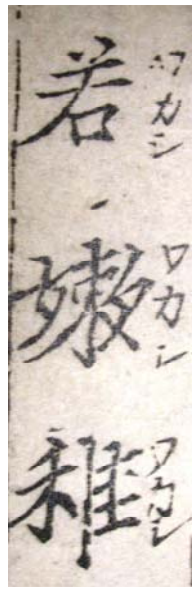
易林本『節用集』



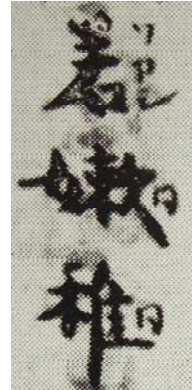
稚^{ワカシ}
嫩^同

天正十八年本『節用集』の「嫩」文字

黒本本『節用集』の「嫩」文字



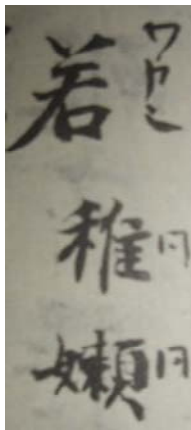
若^{ワカシ}
嫩^{ワカシ}
稚^{ワカシ}



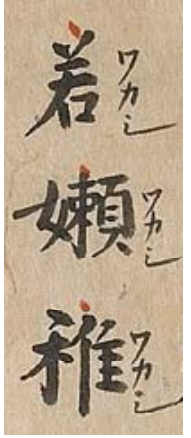
若^{ワカシ}
嫩^同
稚^同

増刊『下學集』の「嬾」文字

龍門文庫藏『節用集』の「嬾」文字

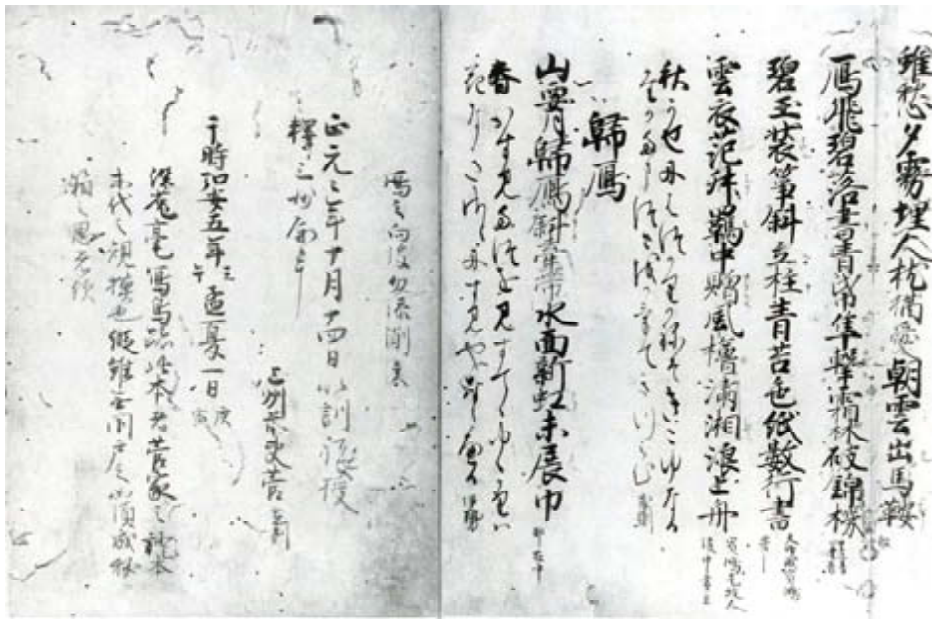


若^{ワカシ}
稚^同
嬾^同



若^{ワカシ}
嬾^{ワカシ}
稚^{ワカシ}

※室町時代の古写本『節用集』類にあつては、常に『下學集』編者東麓破衲が指摘していた字形相似に基づく誤写が顕著に和訓「わかし」の標記字に表出し始めている。



二条為氏卿書寫『和漢朗詠集』二軸(尊敬閣文庫藏)他コレクシヨシ

『和漢朗詠抄』鎌倉末期写 伝正韵筆 嘉禎四年・正元二年・弘安五年本奥書有二帖